

# 東京大学

## 理学部広報

第2巻 第7号 昭和45年7月15日

---

### 内 容

理学部会合日誌	2
教授会メモ	2
各委員会委員名簿	3
学生関係	3
服部名誉教授の逝去を悼む	4
お知らせ	5

## 6月理学部会合日誌

- 6月1日(月)  
2日(火)  
3日(水) 1:00~3:00 理・臨時カリキュラム委員会, 3:00~5:30 主任会議  
4日(木) 10:30~1:00 会計委員会  
5日(金)  
6日(土)  
7日(日)  
8日(月) 2:00~4:20 理学系研究科委員会  
9日(火)  
10日(水) 12:00~2:30 情報科学設立準備委員会  
2:30~4:00 人事委員会  
4:00~6:30 院生との会見  
11日(木)  
12日(金) 1:30~3:20 紀要委員会  
(1:30~6:00 予定)  
(1:30~7:35) 理系院生大会  
(6:00~9:00 予定)  
(6:00~11:00) 理学部学生大会  
13日(土)  
14日(日)  
15日(月) 12:30~13:40 理職との会見  
16日(火)  
17日(水) 11:00~1:00 情報科学設立準備委員会  
6:00~10:00 理学部学生大会(臨時)  
1:00~3:00 理・臨時カリキュラム委員会  
18日(木)  
19日(金)  
20日(土)  
21日(日)  
22日(月)  
23日(火)  
24日(水) 1:00~5:00 教授会  
25日(木) 11:00~1:00 3号館運営委員会  
3:00~5:00 入試委員会(修士)  
26日(金)  
27日(土)  
28日(日)  
29日(月)  
30日(火)

## 教授会メモ

- 6月24日(水) 定例教授会  
(13時~ 於 物理新館会議室)
1. 前回議事承認
  2. 研究生の件(入学, 期間延長)
  3. 学部学生卒業の件: 地球物理学教室 杉憲子 について卒業が認められた。
  4. 人事異動について
  5. 学内状況報告
- 5月祭が平穏に行なわれた。北病棟移転が実行された。教養学部において安保に関する学生ストライキがあり, 6月17日~23日にわたって授業が行なわれなかったが, これに関しての補講は申し出によって教養学部で考慮する。理学部でも6月17日に学生大会が開かれ, 22, 23日の両日ストライキが行なわれた。この他, 物理, 天文, 地物, 生化などの教室で部分的なストライキが行なわれた。
- 6月10日に学部長および数名の教官と大学院自治会委員の間で大学改革に関しての懇談が行なわれ, 学生より大学院自治会の改革への参加, 就職問題について意見が述べられた。
- 入学試験の改善に関する答申(6月16日)が行なわれた件につき報告があり, 理学部長より今後とも御協力願いたいとの要望があった。
- 全学の建築委員会が出発した。これは学内に山積している土地・建物問題の処理と将来計画とを目的としているが, さしあたっての問題は概算要求に関することになろう。
- 過去に行なわれていた公開講座を再開する。秋に“情報”というテーマで行なう予定であり理学部の協力が要望されている。
6. 幹事会報告(藤田教授)  
5月29日に島内委員会報告に関する理学部懇談会が行なわれた。(理広報 Vol. 2, No. 6 に既報)
  7. 会計委員会報告(概算要求その他)(高井教授)
  8. 人事委員会報告(島村教授)
  9. 臨事カリキュラム実施委員会報告(大木教授)  
進学振り分け。要望科目について。専門科目の認定。臨時カリキュラムの今後。全学ゼミの2学期の分について, など。
  10. 教務委員会について  
前回の教授会で方針が承認された教務委員会を発足させる。(委員については別項参照)
  11. 改革委員会(教官)中間報告について

先日理学部内で集められたアンケートの結果について藤田教授より報告があった。また、植村教授より委員会の現況について報告があった。

12. その他

### 各委員会委員名簿

#### 教務委員会委員

◎大木 道則 教授 (化学)  
小松彦三郎 助教授 (数学)  
西島 和彦 教授 (物理)  
岸保勘三郎 教授 (地物)  
江上 信雄 教授 (動物)  
木村 敏雄 教授 (地質)

#### 人事委員会委員

◎島村 修 教授 (化学)  
秋田 康一 教授 (動物)  
木原 太郎 教授 (物理)  
野田 春彦 教授 (生化)  
岩堀 長慶 教授 (数学)

#### 会計委員会委員

◎高井 冬二 教授 (地質)  
藤田 宏 教授 (数学)  
高宮 篤 教授 (生化)  
島内 武彦 教授 (化学)  
下郡山正己 教授 (植物)  
竹内 均 教授 (地物)  
◎印は委員長

## 学 生 関 係

### 学生自治会委員長交替

理学部学生自治会委員長は6月上旬改選された。新委員長氏名は次の通り。

委員長 小 杉 健 郎  
副委員長 野 崎 一 洋

理学系大学院生自治会委員長は5月上旬改選された。新委員長氏名は次の通り。

委員長 十 市 勉  
副委員長 河 本 進

6月10日(水) 5月28日に理学系大学院生自治会から申し入れのあった理学系委員長と院生との話し合いの会が午後4時から6時15分まで理学部会議室で開かれた。理学系委員長、理学部学生委員を含む4名の教官と、自治会正副委員長、自治委員を含む院生20名余りが出席し、1. 改革について、2. 就職問題、3. 施設問題、4. 劉さんの問題、の4つの議題について話し合いが行なわれた。

6月12日(金) 化学教室講堂において午後1時半から6時半までの予定で理学系大学院生大会が開かれ7時半に終了した。投票時の議場在席数179、議場委任38、(定足数177)で次の提案および特別決議が採決された。

自治委員会提案。議案(1. 情勢。2. 今期の運動方針。3. 劉さんに在留許可を。4. 当面する課題にむけての方針) 賛成139、反対23、保留12(可決)。ストライキ(6・23ストライキ、集会参加) 賛成135、反対25、保留15(可決)。

理系闘争委員会提案。闘争方針(日帝打倒・安保粉碎。反基地・反軍闘争。入管体制粉碎。裁判闘争勝利。加藤近代化路線粉碎) 賛成26、反対134、保留14(否決)。行動提起I(6・13, 15, 22, 23ストライキ) 賛成27、反対137、保留8(否決)。行動提起II(6・14統一行動参加) 賛成28、反対136、保留8(否決)。

特別決議。I 安保廃棄宣言。II 北病棟強行移転抗議・病職支援。III 法務省・入管当局は直ちに劉さんへのビザを発行せよ。(いずれも賛成多数で採択)。

ストライキ提案について批准投票が22日まで行なわれたが、賛成463反対140保留94(休学・留学者を除く院生総数862)で批准が成立した。

理学部2号館講堂において午後6時から9時まで理学部学生大会が予定されたが、午後10時になっても出席者数99で定足数に2名不足し、学生集会に切りかえられて11時まで安保改革を中心に討論が行なわれ、劉さんの問題および北病棟移転問題についての特別決議の他に次の提案が可決された。

常任委員会提案。I 6・22, 23 安保反対スト。II 教育・大学院入試問題で学部公開交渉要求。全国理学部自治会共闘会議結成およびかけ。III 全学改革委員会の民主的確立のため学生の代表3名選出。

6月17日(水) 理学部2号館講堂において理学部学生大会が午後4時から9時までの予定で開かれ、10時に終了した。投票時の議場在席数101、議場委任26(定足数101)で、自治会常任委員会提案(6月12日学生集会における提案とほぼ同じ)が賛成69、反対26、保留4で可決された。(投票不参加者議長の他に1名)

この提案に基づき、改革委員に次の3名が選出された。得票数、小杉 68, 野崎 64, 高野 68。

ストライキ提案について批准投票が19日まで行なわれ、賛成 126 反対 24 保留 23 白票 10 (定足数 180) で批准が成立した。

6月19日(金)から23日まで物理・天文・地物・植物・生化学の各学科でクラス投票に基づいて学科ストライキが行なわれた。22日および23日には6月17日の理学部学生大会決定に基づく理学部ストライキが行なわれた。また23日には6月12日の理学系大学院生大会決定に基づく大学院のストライキが行なわれた。この間さしたる混乱は無かった。

### 服部名誉教授の逝去を悼む



服部静夫先生は本年はじめ以来ご健康がすぐれない状態が続き、2月23日日虎ノ門病院に入院、療養されておりましたが、手厚い看護のかいもなく、4月17日午後9時5分肝臓癌のために68年の生涯を終えられました。ここに服部先生の業績をかえりみて追悼の意を表わしたいと思います。

服部先生は大正14年3月31日東京帝国大学理学部植物学科を卒業、同日東京大学助手に任命され、昭和7年8月理学博士の学位をうけられました。昭和13年4月東京帝国大学助教授になられ、植物生理化学講座を担

当されました。昭和19年10月東京帝国大学教授になられ、昭和29年9月植物学第5講座を担任、昭和34年4月植物学第2講座を担任し、昭和37年3月に至るまで37年間にわたって理学部のためにつくされました。この間、本学の評議員を5期、大学院生物系研究科委員長を2期にわたり、また昭和30年10月から理学部長を2年間、さらに大学制度審議会委員などをつとめられました。

研究上においては先生は当初から植物生理化学の分野の研究を続けられ、植物色素中特にフラボノイド化合物、また炭水化物に関する研究に力をつくされ、この方面に大きな業績をのこされました。なかでもフラボン類の構造と紫外部吸収との関係、アントクロール色素中のカルコンとオーロンとの生合成的関係、不完全菌ブルリアによるルチン、クエルセチンを含むフラボノイドの分解、サクラのテングス病菌とその寄生にもとづくサクラの特殊形態である天狗巣との関係、ゴマノハグサ科、シソ科などの少糖類などについての研究は高く評価されています。これらの論文とともに、その著書、植物色素と植物生理化学実験法などを通して、大いに後進を益されました。

学外においては日本植物学会、日本植物生理学会、日本生化学会などの役員として諸学会につくされ、特に昭和30年からひきつづき8年間日本植物学会会長として、わが国の植物学界のために尽力され、大きな功績をのこされました。

このほか文部省関係では国語審議会委員、学術奨励審議会学術用語分科審議会副会長などをつとめられ、特に植物学学術用語の主査として活動され、また昭和34年から2期にわたって日本学術会議の会員にえらばれて力をつくされるなど、日本の科学行政にも貢献されました。

昭和37年東京大学を停年退職されることともに名誉教授となられ、また同年岡山大学長をひきうけられました。岡山大学長となられてからは大学行政と同大学の発展のために多大のご活躍が期待されていましたが、その途上、翌年7月不幸にして、脳血栓で倒れられたことは先生にとっても、さぞ心残りでありましたでしょうし、大変残念に思われるところです。しかし、短期間ではありましたが岡山大学ご在職中に残された功績は大きく、高く評価されています。その後、幸にも快方に向わっていたところを、このたび突然不幸な病が先生を襲い、お命を奪ってしまったことはまことに残念の極みといわなければなりません。ここに心から哀悼の意を表します。

## お 知 ら せ

### ○第 15 回国際科学・教育フィルム展示会開催

開 催 地: イタリア・パドヴァ大学  
開 催 期 間: 1970 年 11 月 8 日~14 日  
申 込 締 切 日: 1970 年 9 月 1 日

### ○オーストラリア原子核工学教室開催について

分 野: 放射性アイソトープ  
期 間: 1970 年 11 月 9 日~12 月 4 日  
場 所: オーストラリア, ニュー・サウス・ウェールズ,  
ルーカス・ハイツ  
費 用: 自己負担  
締 切 日: 10 月 5 日

---

編 集 和 田 昭 允 (広報委員)  
理・1号館217号室 内線 2298

8 月は特に緊急のことがないかぎり休刊とします。  
次号は 9 月 5 日頃出る予定です。